2021 年度事業報告

目次

1. 事業報告全般 3

1.1. 全般 3

1.2. 20210 年度役員および担当 4

1.3. 会員異動 5

1.4. 総会 5

1.5. 理事会 5

2. 事業活動 6

2.1. 会誌刊行事業 6

2.1.1. 会誌編集委員会 6

2.1.2 会誌経営委員会 8

2.2 普及研修事業 9

2.2.1. 研修委員会 9

2.2.2. シンポジウム実行委員会 11

2.2.3. 試験実施委員会 12

2.2.4. 広報活動（広報委員会） 15

2.2.5. 西日本委員会 15

3. その他委員会・プロジェクト活動 16

3.1. 表彰者選考委員会 16

3.2. 著作権活動（著作権委員会） 16

3.3. 標準化活動(標準化委員会) 16

3.4. 知財情報活性化プロジェクト 17

3.5. パテントドキュメンテーション委員会 17

4. 研究会活動 17

4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG) 17

4.1.1. 化学分科会 17

4.1.2. ライフサイエンス分科会 17

4.1.3. 特許分科会 18

4.2. 専門部会（SIG）.....18
4.2.1. 技術ジャーナル部会.....18
4.2.2. パテントドクメンテーション部会.....19
4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会.....19
4.2.4. ターミノロジー部会.....20
4.3. 3i研究会.....20
5. 調査・受託事業.....21
5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務.....21
5.2. その他の委託業務.....22
6. 関連団体との連携.....22
7. 事務局.....22

1. 事業報告全般

1.1. 全般

2021 年度は、引き続き新型コロナ感染症の感染拡大が継続する中で、運営された。財政的には、収入 36,082,244 円、支出 30,865,003 円で、結果として 5,217,241 円の黒字となった。昨年度（収入 36,942,015 円、支出 32,898,821 円で結果として 4,043,194 円の黒字）より黒字幅は 120 万円ほど増加している。

収入は昨年度比で約 86 万円減少している。それでも黒字化できた要因としては、収入においては、昨年度あった持続化給付金などの高額な雑収益は無かったが、逆に 2020 年度には無かった受託事業（ISO/TC46 や JST 調査など）が計上でき、大きな収入減とならなかったことが挙げられる。支出において、各事業や事務局運営において、ぎりぎりまで合理化努力を行った結果、支出を昨年度より 200 万円以上削減できたことも寄与している。しかし、残念ながら、さまざまな努力はしたものの、次年度において同様な受託調査が得られる見通しは、今のところ立っていない。

会員数については、引き続き、正会員が大きく減少し、維持会員も減少している。ただし、特別会員については、微増で減少に歯止めがかかっている。会員減少の要因としては、会員の高齢化による離脱（正会員の場合）、新型コロナ感染症の拡大による経済停滞の影響（維持会員など）などが考えられる。このため、会費収入は、維持会員 506 万円（前年度）→440 万、特別会員 272 万→264 万、正会員 765 万→739 万となり、全体でも 1,476 万→1,426 万と減少している。（全体の減少が少ないのは経理上過年度会費の減が少なかったためである。）正会員は、相変わらず減少しているものの、やや減少度合いが緩和されたが、残念ながら維持会員の減少が相当大きくなった。今後、維持会員のつなぎ止めに尽力するとともに、正会員の拡充を図るために、さまざまな施策を講じることが必要である。

会誌刊行事業については、広告料の増加により、収入は、微増した。ただし、販売収入は微減である。普及研修事業においては、講習会、シンポジウム、検索技術者検定事業のいずれも、増収であった。とくに、講習会は、1.5 倍という好結果であった。シンポジウムは、オンラインプラットフォームの導入にもかかわらず、大幅な利益を確保できた。検索技術者検定は、CBT 化の初期費用があった昨年度が支出超過であったのに対し、利益が出る状況を回復できた。こうした成果は、会員各位、特に理事、委員会関係者、その他の皆様、とくに各行事のスポンサーのみなさまの絶大なご尽力とご支援によるものであることに厚くお礼申し上げる。それとともに、INFOSTA が提供する価値が、世の中に一定程度、受け入れられている証拠であるとも言えよう。

2022 年 4 月以降も、新型コロナ感染症拡大の余波を受けて、イベントのオンライン化、職員の在宅勤務などが必要となる事態が予想され、今後の協会運営には一層の創意工夫と抜本的な改革が必要となろう。会員減による減収を、事業による黒字でどれくらい補填できるかということと、一層のコスト削減の成否が、今後の INFOSTA の動向を決めることになろう。そのため、執行部や各事業担当の中で、定期的あるいは随時に経営状況や事業の推進状況を監視し、対策を協議、実施することが必要である。その中で、ビジョン検討委員会などにより事業運営について指摘された問題点を解消すること、そこで示された方向性を実現化すること、さらに、運営部会の設置による運営や事務処理の効率化と改善に向けての検討結果を実施に移

すこと、などが考えられる。そして、INFOSTA として会員や社会にとってユニークな付加価値を提供して、縮小均衡を脱出するよう不断の努力を積み重ねてゆきたい。

1.2. 2021 年度役員および担当

2021 年度役員一覧(50 音順)

役職	氏名	担当職務
理事	大塚栄一	会誌、著作権
理事	岡田芳幸	調査、CBT試験、HP担当
理事	岡安渉子	試験実施、CBT試験
理事	長田孝治	専務理事（事務局長事務取扱委嘱）
理事	清田陽司	研修、新規事業、運営部会
理事	澤田大祐	研修、運営部会
理事	清水美都子	副会長
理事	棚橋佳子	会誌、シンポジウム
理事	徳野肇	３i研究会、知財情報活性化、運営部会
理事	殿﨑正明	会誌
理事	原田智子	副会長
理事	林和弘	新規事業、運営部会
理事	増田豊	シンポジウム、CBT試験
理事	松下茂	広報・ホームページ、著作権、運営部会
理事	松田真美	CBT試験、新規事業、広報・ホームページ
理事	宮澤彰	標準化
理事	山﨑久道	会長
理事	山中とも子	3i研究会、運営部会
理事	吉井隆明	知財情報活性化
理事	吉野敬子	試験実施、CBT試験、運営部会
理事	稲葉洋子	西日本、研修

理事	白須結人	西日本、知財情報活性化
理事	中野敦子	西日本、広報・ホームページ
理事	山田瑞穂	西日本、試験実施
監事	小田島亙	
監事	角田裕之	

1.3. 会員異動

種別	2020 年度末	入会	退会	増減	2021 年度末
維持会員	40	0	3	-3	37
特別会員	62	2	0	2	64
正 会 員	711	31	84	-53	658
準 会 員	4	0	2	-2	2
合計	817				761

1.4. 総会

第 64 回定時社員総会は、2021 年 6 月 23 日に開催された。

議題

１．2020 年度事業報告および決算報告（審議）
２．2021 年度事業計画および予算案（報告）
３．2021～2022 年度役員選挙
４．第 46 回情報科学技術協会表彰
　１） 情報業務功労賞 北島由紀子氏
　２） 教育･訓練功労賞 都築 泉氏
　３） 研究発表賞 松田真美氏、黒沢俊典氏、林 和弘氏
　　「MEDLINE 収録国内医学雑誌の経年分析：採録数の減少と電子データの重要性」
　　（『情報の科学と技術』第 70 巻第 1 号（2020 年）に掲載）
　４） 優秀機関賞 日仏図書館情報学会
　５） 協会事業功労賞 廣谷映子氏
５．名誉会員推挙 川島 順氏
６．永年会員推挙 井上 孝氏、時実象一氏
７.その他

1.5. 理事会

2021 年度理事会は、5 回開催された。

第 1 回　2021-07-12
　役員選出、理事担務検討ほか

第 2 回　2021-10-19
「情報の科学と技術」連載記事を元にした出版企画
「簡素で一元的な権利処理」へのパブリックコメントほか
第 3 回　2022-01-14
役員、委員の優遇措置について
バナー広告の年間契約金額の変更についてほか
第 4 回　2022-03-15
2023 年度事業計画案（含む予算案）
運営部会内規変更ほか
第 5 回　2022-05-24
2021 年度決算報告、事業報告ほか

2. 事業活動

2.1. 会誌刊行事業

2.1.1. 会誌編集委員会

2021 年度も安定した刊行(毎月 1 日発行)を達成することができている。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。特集テーマの検討に際しては、読者の業務に直接関連するようなトピックとして「デジタルレファレンスサービスの未来」（1 月号）や「大学における動画の活用」（2 月号）を特集する一方で、業務の背景となる分野への理解を深めるために「学術情報流通を支える標準化技術」(4 月号)、「研究者情報基盤とその利活用」(5 月号)、「海外学術出版社の研究支援サービスの変化」(9 月号)も取り上げた。さらに、業務に関連する法令として「インターネット上に公開された個人情報は消せるのか？」(11 月号)、「デジタル時代の著作権」(3 月号)を特集し、「情報を切り口にした多様な特集の構成を取ることができたと言える。

例年どおり、他の委員会と連携した企画を実施した。パテントドキュメンテーション委員会からは「With/After コロナ時代の知財 DX」(7 月号)の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、特集号を発行することができた。シンポジウム実行委員会からは「第 18 回情報プロフェッショナルシンポジウム」（12 月号）特集号の発行に全面的な協力を頂いたほか、同シンポジウムの口頭発表者への投稿呼びかけを行って頂いた。一昨年度より試行している研修委員会とのタイアップも継続しており、研修委員会が開催するセミナーの講演録執筆、掲載の呼びかけを行って頂いた。その他、SIG 部会の活動報告執筆の呼びかけなども継続的に行っており、記事読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。

新たな取組として、論文や記事の根拠となるデータを共有・公開できるようにするために、J-STAGE Data の運用を開始し、1 件のデータ登録があった。今後登録件数を増やしていくことが課題である。

【特集】

年	号	特集タイトル
2021	4 月号	学術情報流通を支える標準化技術
2021	5 月号	研究者情報基盤とその利活用
2021	6 月号	X-インフォマティクス
2021	7 月号	With/After コロナ時代の知財 DX
2021	8 月号	図書館とゲームのいま
2021	9 月号	海外学術出版社の研究支援サービスの変化
2021	10 月号	起業支援における情報提供
2021	11 月号	インターネット上に公開された個人情報は消せるのか？
2021	12 月号	第 18 回情報プロフェッショナルシンポジウム
2022	1 月号	デジタルレファレンスサービスの未来
2022	2 月号	大学における動画の活用
2022	3 月号	デジタル時代の著作権

【連載・コラム】

2020 年度に引き続き、連載「情報科学技術に関する識別子」を実施した。

- 情報科学技術に関する識別子（2020 年 5 月～2021 年 12 月）
- INFOSTA Forum（不定期連載中）

特集原稿及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を 18 本、書評を 7 本掲載した。投稿記事数は堅調に推移している。書評数は昨年の半分程度だが、一昨年と比べると同程度となっている。

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2021-04-07	定例委員会	Web 会議
2	2021-05-12	定例委員会	Web 会議
3	2021-06-05	定例委員会・企画会議	Web 会議・文京シビックセンター
4	2021-07-07	定例委員会	Web 会議
5	2021-08-04	定例委員会	Web 会議
6	2021-09-01	定例委員会	Web 会議
7	2021-10-06	定例委員会	Web 会議
8	2021-11-10	定例委員会	Web 会議
9	2021-12-04	定例委員会・企画会議	Web 会議・日本図書館協会会館
10	2022-01-12	定例委員会	Web 会議
11	2022-02-02	定例委員会	Web 会議
12	2022-03-02	定例委員会	Web 会議

【委員会の体制等】

会誌編集委員会では会誌編集協力員(2022 年 3 月現在 5 名）を置いており、特集企画、連載企画への参画のほか、電子メール、企画会議への参加等を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われない多角的な情報の把握に努めている。

その他、会誌経営委員会には 2 名の委員が参画し、多様な視点から会誌の在り方等について検討を進めるとともに、投稿の手引き改訂、J-STAGE 上でのお勧め記事掲載及びアクセス解析といった面で緊密な連携のもと具体的な活動を行っている。

また、編集作業の効率化の観点から、昨年度に引き続きオンラインのチャットツール活用、マニュアルの整備を行っている。昨年に引き続き、定例の委員会については全て Web 会議システムを通じて実施し、企画会議を含む 6 月・12 月は対面及び Web 会議システムのハイブリッド形式で委員会を実施した。

ハイブリッド形式での企画会議では安定したインターネット環境が必要であり、会場選定の際に優先する条件としている。また、画面を共同編集可能なツールを試用するなどして、オンライン環境下でも効果的な議論が実施できるよう試行錯誤を行っている。

2.1.2　会誌経営委員会

会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、会誌に関わる諸業務の健全な運営のための施策、記事構成に関する方針、読者増加に向けての施策などの策定と実施の監督を行うことを任務とする。2021 年度は、事業計画に基づいて以下の活動を行った。

（1）関係する他の委員会との役割分担の明確化と連携の推進

2021 年度は、2020 年度に行った会誌編集委員会との業務分掌の整理に基づき業務を進めた。整理の結果、特集記事と連載記事の企画テーマが重複する問題は解消されている。一方、これまで会誌編集委員会の任務であった会誌投稿規定・執筆要領の策定は、会誌の運営に関わる業務として本委員会が所掌することとした。

（2）会誌記事に関する検討と企画

会誌記事に関する検討は、以下 3 点を中心に実施した。

①　連載記事

昨年度から継続中の連載「情報科学技術に関する識別子」は、2021 年 12 月号をもって終了した。2020 年度に提案された特許関連の連載企画について検討したが、成案には至らなかった。セミナー企画や出版企画との連動等も見据え、次年度も企画検討を継続する。

②　特集記事の強化

INFOSTA が後援する TP&D フォーラムの論集『TP&D フォーラムシリーズ（整理技術・情報管理等研究論集）』につき、会誌の特集記事として取り扱う可能性を TP&D フォーラム実行委員会と協議した。会誌編集委員会とも調整した結果、2022 年度より同フォーラムが扱う論文及び記録を会誌の特集記事として掲載する方向で合意した。

③　出版企画との連動

2017年～2018年にかけ連載された「オープンサイエンスのいま」をもとにした書籍出版企画を新たに提案し、2021年10月の理事会における審議を経て編集作業を実施した。出版に向けた検討を次年度も継続する。

（３）会誌関係規定類の改訂に関する検討

会誌関係規定類に関する検討は、以下3点を中心に実施した。

① 2020年度より継続して、適当な論文発表媒体を持たない非会員を想定して、非会員にも会誌への論文投稿を認める方針について検討した。会誌編集委員会とも調整のうえ、非会員への論文投稿を認める方針で合意した。さらに、査読方針の明確化と査読体制の強化についても検討した。次年度は、引き続き外部査読を含んだ投稿規定の整備に関する検討を継続する。

② 2020年度に提案された会誌のプライバシーポリシー・倫理規程の策定について検討した。審議の結果、新たに規定を策定することはせず、「投稿される方へ」本文に付属する形で不適切な事由を列挙した『別紙』を追加する方針で合意した。実際の改訂作業は、上述した投稿規定の改訂に合わせて次年度に行う。

③ 2021年7月より運用を開始したJ-STAGE Dataに合わせ、「情報の科学と技術」データ共有・ 公開ポリシーを策定した。

（４）会誌のエンバーゴ期間短縮に関する検討

2020年9月に公開した「情報の科学と技術」オープンアクセスポリシーでは、エンバーゴ期間を3か月と定めている。特集記事の執筆者から期間短縮の要望があったため、この期間の妥当性につき検討した。本検討は次年度も継続する。

（５）会誌の中長期的な位置づけの検討

非会員や他団体の本協会活動に関する潜在ニーズ、INFOSTAの他の委員会との連携活動等について検討した。会員へのアンケート調査、潜在読者層へのインタビュー調査等の実施方法につき、次年度継続して検討する。

（６）その他

① 2016年4月以降のJ-STAGEダウンロード件数分析を実施し、会誌編集委員会と共有した。

② 協会及びJ-STAGEの会誌ページの更新を適宜行った。

【委員会開催実績】以下の日程で開催した。

第1回2021年6月3日， 第2回2021年8月6日， 第3回2021年12月27日，
第4回2022年3月3日， （いずれもオンライン開催）。

2.2 普及研修事業

2.2.1. 研修委員会

【概要】

2021年度は、2020年度に引き続き新型コロナウィルス感染症の感染拡大の影響を大きく受けたものの、蓄積したオンライン会議システム利用のノウハウを活用することで、引き続きオンラインセミナーを複数回開催した。

INFOSTAの各委員会との連携強化にも努め、広報委員会との連携により、セミナー開催の様子をソーシャルメディアによりリアルタイム発信した。また、試験実施委

員会と協力し、昨年度に引き続き「合格者を祝う会」のオンライン開催に協力した。

今年度の新たな試みとして、オンラインチケット販売サービス（Peatix）の活用を試行した。これにより、事務局の事務負担を軽減するとともに、開催当日の飛び入り参加を可能にするなどのメリットを得ることができた。

2022 年度もコロナ禍の影響は継続すると見込まれるものの、徐々に行動制限が緩和され、現地開催が可能になることも想定し、より効果的なセミナー開催の在り方を検討していく予定である。

【委員会開催状況】

以下の日程で開催した。

第 1 回 2021 年 4 月 22 日，第 2 回 2021 年 6 月 22 日，第 3 回 2021 年 8 月 30 日
第 4 回 2021 年 10 月 21 日，第 5 回 2021 年 12 月 17 日，第 6 回 2022 年 2 月 2 日
（いずれもオンライン開催）

【活動状況】

- 2021.5.10「これからのインフォプロに求められるスキルセットとマインドセット」
  講師：田邊 稔 氏（株式会社エムエムツインズ 代表取締役）
  山下 ユミ 氏（公共図書館 司書）
  岡本 真 氏（アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役）
  オンライン開催
- 2021.9.25「基礎から学ぶ！情報収集・活用術：検索「超」入門」
  講師：原田 智子 氏（鶴見大学名誉教授）
  オンライン開催
- 2021.10.9-10「サーチャー講座 21 ―検索技術者検定2級 対策―」
  講師：岡 紀子 氏（佛教大学）
  阿部 潤也 氏（東京歯科大学）
  中島 玲子 氏（慶應義塾大学 文学部）
  田中 邦英 氏（元 近畿大学）
  オンライン開催
- 2021.11.9「翻訳ワークショップセミナー」
  講師：Mr. Nagi Suzuki
  オンライン開催
- 2022.1.14 INFOSTA 会員限定 新春セミナー「コロナ時代のフェイクニュースを科学する」
  講師：笹原 和俊 氏（東京工業大学 環境・社会理工学院 イノベーション科学系 准教授）
  オンライン開催

2.2.2. シンポジウム実行委員会

(1) 委員会開催状況

▼ INFOPRO2021 実行委員会（全て Zoom 開催）

第 1 回　2020 年 11 月 24 日（19:00-21:10）
第 2 回　2020 年 12 月 17 日（19:00-21:30）
第 3 回　2021 年 1 月 12 日（19:00-20:50）
第 4 回　2021 年 2 月 4 日（19:00-20:30）
第 5 回　2021 年 3 月 1 日（19:00-20:45）
第 6 回　2021 年 4 月 5 日（19:00-20:55）
第 7 回　2021 年 5 月 6 日（19:00-21:25）
第 8 回　2021 年 6 月 15 日（19:00-21:00）
座談会　2021 年 7 月 21 日（19:00-21:10）

▼ INFOPRO2022 実行委員会（全て Zoom 開催）

第 1 回 2021 年 11 月 24 日（19:00-20:50）
第 2 回 2021 年 12 月 22 日（19:00-21:30）
第 3 回 2022 年 2 月 3 日（19:00-21:00）
第 4 回 2022 年 3 月 3 日（19:00-21:15）
第 5 回 2022 年 4 月 18 日（19:00-20:20）
第 6 回 2022 年 5 月 11 日（19:00-21:10）

(2) 活動状況

18 回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO2021）を，7 月 1 日，2 日の二日間にわたり開催した。開催の形式は COVID-19 の感染拡大の影響と前年度の INFOPRO2020Plus での試行を踏まえ，INFOPRO 史上初めてオンラインによる有料開催となった。運営プラットフォームとして主要な学協会の学術大会で採用されている Morressier を導入し、単に zoom のような汎用の Web 会議ツールの代替としてではなく、発表資料やプログラムの登録・公開、参加者の認証とリスト公開、セッションのアーカイブと公開など、開催の前後の行程を含めたシステム化の試行に取り組んだ。運営のためにプラットフォームの仕様や操作を実行委員が習得することが必要だったが、発表者、さらには視聴者にも新たなユーザエクスペリエンスを提供する機会となり、協会の ICT への意欲的な姿勢をアピールした。

当日のセッションは以下の構成で実施し、厳しい状況下での開催にもかかわらず，多くの会員/非会員の参加を得た。

● 特別講演（オンライン開催）2 題
1. コロナ禍後の社会変化を考える
2. ポストコロナ時代の大学改革とキャリア構築

● OUG ライフサイエンス分科会公開講座（オンライン開催）
テーマ：The「医学文献データベース」その中身と違いを検証する（海外編）

● 口頭発表（12 件）

● プロダクト・レビュー（6 社）（オンライン開催）

Morressier プラットフォームには 202 名のアカウント登録があり、そのうち 186 名が Unique Viewer として実際に視聴した。

シンポジウム開催後に、会誌への開催報告の企画を実行委員会で検討し、委員会メンバーを中心にした INFOSTA 関係者と参加者が分担執筆したコンテンツを Vol.71 No.21 に特集として掲載した。

予稿は J-STAGE に、公開許可が得られた発表資料・録画、参加者リストは Morressier 上で公開している。

第 19 回となる INFOPRO2022 も、基本的にはオンラインを中心としたイベントとして 2021 年 7 月 7 日（木）、7 月 8 日（金）に zoom を使い開催する予定である。メインテーマに『学びと人材育成のニューノーマル』を掲げ、組織や人材育成の在り方、学びのイノベーションを模索する。また大学・研究機関で研究力の分析、知財の管理・活用に関わるリサーチ・アドミニストレーター（URA）によるセッションを追加し、発表内容と聴講対象者の拡張を図る。

2.2.3. 試験実施委員会

昨年に引き続き、新型コロナウィルス感染拡大防止措置として、各委員会・分科会はいずれも zoom によるオンライン開催となった。

１）試験実施委員会

①　委員会開催状況と主な議題：

第 197 回(2021-04-20)広報、事業報告、HP（URL)他
第 198 回(2021-05-12)広報、委員増強対策他
第 199 回(2021-06-16)作問検討、CBT 化検討他
第 200 回(2021-07-20)担当理事交代、CBT 化検討他
第 201 回(2021-09-01)2021 年度試験検討、CBT 化検討他
第 202 回(2021-10-13)2021 年度試験検討、CBT 化検討他
第 203 回(2021-12-15)2021 年度試験検討、CBT 化検討他
第 204 回(2022-01-13)2021 年度 1 級一次合否判定、2021 年度 1 級二次試験準備他
第 205 回(2022-01-26)2021 年度 2 級合否判定、CBT 化検討他
第 206 回(2022-02-14)2021 年度 1 級二次合否判定、公開解答例検討他
第 207 回(2022-03-03)公開解答例検討、CBT 化検討他
第 208 回(2022-03-30)CBT 化検討他
第 209 回(2022-04-13)CBT 化検討他
第 210 回(2022-05-13)合格者名会誌掲載検討、受験案内関連検討、CBT 化検討他

②　活動状況

(1)　2021 年度検定試験実施状況報告

2021 年度の「検索技術者検定」試験は、１級一次試験と 2 級が例年とほぼ同時期の 2021 年 11 月 28 日（日）に各会場で、1 級二次試験は 2022 年 2 月 13 日（日）にオンライン方式で実施した。3 級は 2020 年度より会場型 CBT 方式へ移行後、作問の追加体制を確保し、更なる受験者増を見込んで 2021 年 8 月 1 日～2022 年 1 月 31 日と試験実施期間を拡大した。

2021 年度の総受験者数は 614 名で、新型コロナ感染症の影響を大きく受けた 2020 年度よりも 75 名の増加、コロナ禍以前と比較しても若干増加している。3 級は、試験申込期間及び受験期間が前年の 3 ヶ月から 6 ヶ月間と大幅に拡大したこと、また受験者層に変化が見られ、これまで受験していなかった層の受験があったことから、受験者数は 2020 年度の約 1.2 倍に増えたが、受験期間の延長に比例した増加とはならなかった。

受験者数推移は以下の通り。

年度	総受験者数	1級	2級	3級
2019年度	604名	21名	162名	421名
2020年度	539名	18名	150名	372名
2021年度	614名	10名	159名	445名

(2)　広報関連

サーチャー講座を実施（参加者 39 名。講義の録画配信はしない）した。
ホームページの見直しを行い、更新対応を継続している。

(3)　委員拡充方策の検討

作問委員、実施委員の増員方策の検討を継続している。

(4)　１級・２級 CBT 化の検討

既に CBT 化を実現した 3 級に続き、1 級と 2 級の CBT 化について、具体的な検討を行った。

(5)　CBT 分科会関連

合格証の会場出力開始。2022 年度も引き続き継続する。当初経費（システム構築料 20 万円）は当年度のみで、2022 年度は発生しない。

(6) 委員会以外の活動

合格者を祝う会は、3 月 11 日（金）に、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、Zoom を利用したオンライン開催で実施した。対象は、2020 年度及び 2021 年度合格者で東西合わせて 10 名の合格者が参加した。

参考）2022 年度計画

2022 年度試験日程：1，2 級は 2022 年 11 月 27 日、1 級 2 次は 2023 年 2 月 12 日、3 級 CBT 試験は、2022 年 8 月 1 日～2023 年 1 月 31 日を予定

試験制度の改革：1級、2級もCBT化し、2023年度開始を目標にしていたが、諸状況を鑑み2024年度以降開始繰り下げとした。

予算案：各級とも、今年度の受験者数の大幅な増加は難しいものとの判断から、前年並みの収支予想としている。

広報活動：広報委員会や研修委員会と連携を図って、引き続き広報活動に力を入れる。

２）CBT分科会

① 委員会開催状況と主な議題

第1回(2021.5.7)契約書、内規改訂、合格認定証、2020年度収支報告、2022年度実施体制、作問、文科省後援申請、広報

第2回(2021.6.3)広報、受験案内、印刷物郵送確認、Youtube動画、外部サイトへの対応、図書館総合展、内規、年間スケジュール、J-Testingシステム関係

第3回(2021.7.8)ポスター、受験案内、Youtube動画、外部サイトへの対応、メルマガ

第4回(2021.8.6)今後の委員会の体制、スケジュール確認、各作業の引継ぎ

第5回(2021.9.15)広報、受験状況の確認、図書館総合展ポスター展示、J-Testingシステム関係

第6回(2021.10.16)広報、受験状況の確認、大学教員へのDM、検索検定3級ウェブページ改訂、J-Testingシステム関係、試験委員会の引継ぎ確認

第7回(2021.11.25)受験状況の確認、広報、J-Testingシステム関係、試験実施委員会の引継ぎ状況確認

第8回(2022.1.12)受験状の確認、応報、J-Testingシステム関係、試験実施委員会による1級・2級のCBT化検討について、商標登録（ロゴマーク）の件

第9回(2022.3.1)今年度試験総括、2022年度試験期間の分科会案、契約書の確認

第10回（2022.5.10)会誌広告、検索検定チラシ、合格者を祝う会、広報、J-Testingシステム関係

② 活動状況

広報関連：以下を実施した

・公式Youtubeチャンネルにて公開している3本の動画「試験勉強の仕方」「試験概要」「体験版」を更新
・ウェブサイト、3級のA4チラシ更新
・広報委員会の協力のもとSNS（Twitter、Facebook)にて随時情報発信
・図書館総合展にてポスター展示（オンライン掲載）
・全国の司書課程等関連する授業を担当する大学教員に向けてのDM送付（三役にて実施 ）
・日本図書館協会を通じて全国の公立図書館（都道府県、市区）および大学図書館に向けてのDM送付（三役にて実施 ）

その他、三役および事務局と連携し、申し込み状況の把握と対応の検討、問い合わせ対応、システムの設定変更、契約更新の手続きを行った。。

2.2.4. 広報活動 (広報委員会)

① 委員会開催状況

- 2021 年度第 1 回委員会 5 月 18 日（火）17:30～19:40
- 2021 年度第 2 回委員会 7 月 27 日（火）17:30～19:40
- 2021 年度第 3 回委員会 10 月 5 日（火）17:30～19:30
- 2021 年度第 4 回委員会 1 月 18 日（火）18:00～19:30

② 活動状況

- HP トップページの変更案を作成してトップページの改訂を実施。
- 全国図書館大会報告集への広告作成。
- 紙媒体のリーフレット改訂を検討したが配布予定が当面ないことから改訂作業は見送った。
- 検索検定等の INFOSTA イベントへの適宜ツィートを実施。
- SNS 活用について研修委員会と調整し内規を改訂し協力体制を整えた。
- Twitter のフォロー数は、429 となり昨年から 50 フォロー増加（2/18 現在）

2.2.5. 西日本委員会

①委員会開催状況

2021-04-26：第 207 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
2021-07-09：第 208 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議 ）
2021-09-02：第 209 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
2021-10-22：第 210 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
2021-12-09：第 211 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）
2022-02-15：第 212 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

② 活動状況（理事会に報告すべき事項）

2021-10-09,10：サーチャー講座 21（研修委員会と協力して Zoom によるオンライン開催）

※サーチャー講座 21 は新型コロナウィルスの影響によりオンライン開催となり、例年実施していた大阪会場での開催は中止。

※例年行われている見学会および「人と情報をつなぐ西日本インフォプロ交流会」（旧じょいんと懇話会）は、新型コロナウィルスの感染状況が収束しないことから開催できなかった。

※例年行われている検索技術者検定「合格を祝う会」は、オンライン開催方式で３月 11 日に東西合同にて実施した。

3. その他委員会・プロジェクト活動

3.1. 表彰者選考委員会

2022 年３月 23 日、４月 13 日、4 月 27 日に表彰者選考委員会をオンライン（Zoom）で開催し、第 47 回（2022 年）「情報科学技術協会賞」の各賞の選考を行い、表彰文の作成を行った。また、表彰規程および研究発表賞推薦細則の見直しを行い、一部改訂案を作成し、理事会に諮った。

以下の各賞は理事会で承認された。

○情報業務功労賞
　徳野　肇氏　（株式会社三菱ケミカルリサーチ）
○教育・訓練功労賞
　西内　史氏（ノーベルファーマ株式会社）
○研究発表賞
　該当なし
○優秀機関賞
　日本特許情報機構
○協会事業功労賞
　下田　尊久氏（前 藤女子大学特任准教授）
○名誉会員
　西村　徹氏、笹森　勝之助氏、三浦　勲氏
○永年会員
　西垣　幸雄氏

3.2. 著作権活動 (著作権委員会)

①　委員会開催状況
- 2021 年度第 1 回委員会 6 月 18 日（金）16:00～17:00 オンライン開催
- 2021 年度第 2 回委員会 10 月 11 日- 10 月 15 日　　オンライン開催
  ＊パブコメ案作成に向けての集中審議

②　活動状況（理事会に報告すべき事項）
- 専門図書館協議会著作権委員会との情報交換会のオンライン開催。
- 文化審議会著作権分科会基本政策小委員会「簡素で一元的な権利処理」の在り方に関する意見募集に関して INFOSTA の立場からパブリックコメントを作成して文化庁に提出。

3.3. 標準化活動(標準化委員会)

①　委員会開催：2 回（2021 年 7 月 7 日,2022 年 3 月 16 日（Zoom））

②　活動状況

(1)

a）国際標準化 ISO/TC37 および TC46 の国内審議団体引き受け
- ISO 国内審議委員会運営規程の修正提案。

b）JIS 策定,　見直しへの協力,
- JIS X 0308 国際標準レコーディングコード(ISRC)の原案作成作業。
- JIS X 0814:2017 図書館統計の定期見直しへの対応。

・ ISMN 日本センターが進めている ISMN の JIS 化作業への協力。

c) 協会独自の標準化活動

・標準化交流プラットフォームへの参加。

(2) ISO/TC37, ISO/TC46 の国内審議団体の事務局としての活動をサポートした。
TC37 での投票回数 53 回, TC46 での投票回数 55 回。

(3) JIS X 0701:2005 情報及びドキュメンテーションー用語、 および
JIS X 0901:1991 シソーラスの構成及びその作成方法　改訂の検討。

3.4. 知財情報活性化プロジェクト

本プロジェクトは、2021 年６月の総会後に設置され、理事３名が担当となった。設置後、山﨑会長・清水副会長を交え、２度の会合（9/26、10/26）を経て、2021 年度事業計画を策定し事務局へ提出した（2021.12）。

事業計画に基づき以下を実施した。

① INFOSTA における知財系の組織の活動状況について、各委員会等の事業報告書及び関係者から得た情報に基づき整理を行った。

② 知財系業務に従事する方々からの情報を得るためのアンケートを実施することとし、アンケート案を作成し（2022.2）、アンケート実施に向けて関係理事に協力を依頼した。

③ パテントドキュメンテーション委員会の活動に参加し、会誌 2022 年 7 月号の知財特集号の発行に向けて、企画・編集に関与した。

④ INFOPRO 実行委員への参加を知財関係者に働きかけ、当該委員長了承の下で結果的に２名の知財関係者の増員（派遣）に結び付けた。

3.5. パテントドキュメンテーション委員会

パテントドキュメンテーション委員会は、毎年会誌「情報の科学と技術」7 月号を知財特集号として発行するための、特集テーマ及び執筆者の検討など知財特集号発行のための付随する作業を行っている。2021 年は、予定通り 7 月に知財特集として「With/After コロナ時代の知財 DX」を発行した。現在 2022 年 7 月号の知財特集発行に向け作業中である。

4. 研究会活動

4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG)

4.1.1. 化学分科会

休会中

4.1.2. ライフサイエンス分科会

（主査：廣谷映子氏、第 383 ～391 回；計 9 回開催、開催月と内容および参加人数）

4 月 INFOPRO2021 テーマ検討のディスカッション　10 名

5 月 INFOPRO2021 発表準備①　9 名

6 月　【2021 年 12 月 6 月 INFOPRO2021 発表準備②　11 名

7月　第18回情報プロフェッショナルシンポジウムINFOPRO2021 内OUG企画”
The「医学文献データベース」その中身と違いを検証する海外編”　101名
9月　AIを活用した論文調査サービス「JDream SR」のご紹介　16名
11月　学術論文のバージョンとプレプリントをめぐる動向　18名
12月　INFOPRO2021振り返り　10名
１月　2022年1月『医学用語シソーラス』のご紹介　20名
２月　2022年2月治験薬データベース(Cortellis Competitive Intelligence, Cortellis Drug Discovery Intelligence)について　11名

4.1.3.　特許分科会

主査：幹事会メンバーで交代制（10回/年 第2金曜日開催、現在休会中）

4.2.　専門部会 (SIG)

特定の分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の4つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。いずれの部会でもメンバーはほぼ固定であり，安定はしているが発展性に乏しいという問題がある。

4.2.1.　技術ジャーナル部会

(会員企業：9社。コアパーソン：持ち回り。計4回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

【議題】

1.各社現状発表

・5月度：1. 改善の機会について
　　2. 執筆者等へのモチベーションアップや維持のための取組
・8月度：1. 技報を担当する組織（編集組織ならびに事務局）の体制について
　　2. 事務局業務における後継者育成について
・11月度：1.　技報の価値を考えよう
　　2.　課題解決を加速しよう
　　3.　ジャーナル部会の活性化
・2月度：1.　社外の読者の感想
　　・意見収集について
　　・意見収集の方法とその内容
　　・意見収集のための工夫について
　　２．ジャーナル部会の活性化

2.『情報の科学と技術』誌投稿について
5月度、8月度、11月度、2月度

4.2.2. パテントドクメンテーション部会

（会員：4 名　コア パーソン：桐山 勉　毎月開催）

① INFOPRO2021 においては、口頭発表①として、「COVID-19 の非特許文献と特許分析に関する研究
Open Science & Citizen Science 時代における個人研究」
及び、「河川の氾濫防止技術に関する特許分析研究　Open Science & Citizen Science 時代においてお役に立てるか？」の２件の発表を行った。

② Citizen Science 時代の市民研究会として、特許出願「可搬式仮設堤防」(特願 2021-105307)を１件実施した。

③ 外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD 委員会に実行委員会 1 名参加派遣。
会誌報の科学と技術 71(7)に、「特集「With/After コロナ時代の知財 DX」の編集にあたって」を企画参加。

④ メンバー間のトピックス情報交換

・米国 PIUG2021、EMW2021、EPOPIC2021、CPAC2021 などの関連詳細情報をメンバー一間で交換。 その他、国内の色々な勉強会で メンバーが参加しているものの相互紹介など。

⑤ プロバイダーデモ勉強会への参加と実施

・アイ・ピー・ファイン社の知財 AI 活用研究会(第４期) にメンバーの一人が顧問 Adviser として参加した。

・Clarivate Analytics 社の Derwent Innovation を試行させて貰い、「河川の氾濫防止技術に関する特許分析研究　Open Science & Citizen Science 時代においてお役に立てるか？」を行った。

⑥ 新型コロナウィルスの影響で、テレワークスになってからは、2021 年 4 月度から 2022 年 3 月度まで、全てのＰＤＧ部会をオンライン ZOOM 会議で実施した。

4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会

（コアパーソン：山﨑久道氏　6 回開催)）

① 会開催報告

回	開催日	テーマ	会場
1	2021/4/16	本の索引の研究のまとめ（1）	ZOOM
2	2021/6/18	本の索引の研究のまとめ（2）、本年度の研究テーマについて	ZOOM
3	2021/9/17	医学中央雑誌シソーラスについての説明と討論	ZOOM
4	2021/11/19	JST シソーラスについての説明と討論	ZOOM
5	2022/1/28	大宅壮一文庫の索引方式についての説明と討論	ZOOM

6	2022/3/18	絵本の索引について	ZOOM

② 活動状況

・シソーラスや索引システムの現状についての事例紹介と討論をおこなった。
・本の索引の研究の集大成として、その結果を、第 18 回情報プロフェッショナルシンポジウムで発表した。
・上記を加筆修正して、会誌 2022 年 3 月号に、事例報告「書籍の索引は『飾り』ではない！：INFOSTA 分類／シソーラス／Indexing 部会研究報告」として投稿し、掲載された。

4.2.4. ターミノロジー部会

（部会員：9 名　　コアパーソン：長田孝治氏　年 6 回開催）

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004 年 5 月に設立した。原則として隔月開催であるが、2021 年度はコロナウィルスの影響もあって 12 月に逝去された会員を偲ぶ会を開催したのみである。

4.3. ３ｉ研究会

① 研究会開催報告：すべてオンラインで行った

第 1 回　2021 年 6 月 24 日（18:30-20:30）
第 2 回　2021 年 7 月 15 日（18:30-20:30）
第 3 回　2021 年 8 月 19 日（18:30-20:30）
第 4 回　2021 年 9 月 16 日（18:30-20:30）
第 5 回　2021 年 10 月 21 日（18:30-20:30）
第 6 回　2021 年 11 月 18 日（18:30-20:30）
第 7 回　2021 年 12 月 16 日（18:30-20:30）
第 8 回　2022 年 1 月 20 日（18:30-20:30）
第 9 回　2022 年 2 月 17 日（18:30-20:30）
第 10 回　2022 年 3 月 16 日（18:30-20:30）
第 11 回　2022 年 4 月 21 日（18:30-20:30）
第 12 回　2022 年 5 月 19 日（18:30-20:30）。

③ 活動状況

・第 8 期は公募により適任のサポーターの協力を得ることができ、研究会活動を再開することができた。
・今期は継続することを目的とし、参加費も一律 5,000 円／人と安価に設定した。
・参加者は 10 名（うち 2 名体調不良のため途中退会）で、各グループ 2～4 名で 3 グループで活動した。サポーターがグループの活動をサポートし、毎回スキルアップのためのミニ講義も開催していただいた。

・データベースはJDreamⅢ（文献検索データベース：(株)ジーサーチ）、パテントマップEXZ（特許解析ソフト：インパテック(株)）を無料で貸与していただき活用した。
・成果発表は、プロフェッショナルシンポジウムでの発表予定である。

5. 調査・受託事業

5.1. ISO/TC37及びISO/TC46国内委員会業務

国際標準化機構（ISO）の「情報とドキュメンテーション」(TC46)及び「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」(TC37)に関する国内委員会業務を、2013年度より担当している。

(1) 国際標準化 TC37（(株) 三菱総合研究所からの委託により実施）

本委員会(井佐原 均委員長）の下に、SC1（専門用語作成の原則と手法）、SC2（用語辞書編纂方法）、SC3（用語、情報、内容の管理システム）、SC4（言語資源マネジメント）、SC5（翻訳、通訳及び関連技術）の5つのSC国内委員会を置き、総会（2021年6月、オンライン会議）への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(53件）等を実施した。

本年度は、以下の3項目のテーマについて、ISO標準化を進めた。

【１】翻訳プロジェクト策定プロセスに関する国際標準化
【２】観光通訳に関する国際標準化
【３】情報付与プロジェクト管理に関する国際標準化

・ 国内審議委員会は3回（2021年6月29日，2021年11月5日、2022年2月15日）、オンラインにて開催した。
・ 投票数53（NP: 3, CD: 6, DIS: 5, FDIS: 3, SR: 17, CIB: 19）の回答作成
・ TC37国際会議(Zoom会議)への委員派遣

(2) 国際標準化TC46

本委員会(宮澤彰委員長）の下に、SC4(技術的相互運用性）、SC8(品質－統計及び性能評価）、SC9(識別と記述）、SC11(アーカイブズ／記録管理）の4つのSC国内委員会を置き、総会(2021年5月、オンライン会議）への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(55件）等を実施した。

・ 国内審議委員会は各SC毎に2回、オンラインにて開催した。
・ 投票数46(DTR: 2, NP: 4, CD: 1, DIS: 8, FDIS: 7, SR: 10, CIB: 23)の回答作成
・ TC37国際会議(Zoom会議)への委員派遣
・ (株）三菱総合研究所からの委託により、「電子書籍の識別子に関する標準化調査研究」を、TC46委員会内に調査作業委員会を設置し、実施した。

5.2.　その他の委託業務

JST より「J-STAGE ジャーナル分析のための予備調査」を受注。

3 月 31 日完了、納品。

J-STAGE データについて、登載ジャーナル・記事の分析を行った。内容としては、分野、発行機関規模、記事のタイプ、言語、オープンアクセス状況、インパクトファクター等別に、出版数および J-STAGE サービス（投稿審査システム、全文 XML 作成ツール、早期公開機能）の利用状況を示した。さらに、調査結果から認められる特徴を簡単にまとめた。継続調査にてジャーナルの類型化に取り組む予定のため、グローバルに展開し高い競争力を持つことを目指すジャーナル、国内や限られたコミュニティにおける活動を意図するジャーナル等の類型化の仮説をまとめた。

6.　関連団体との連携

①　会員としての加入

・一般財団法人機械振興協会協賛会員（継続）
・国立研究開発法人科学技術振興機構賛助会員（継続）
・東京商工会議所賛助会員（継続）

① 他団体との共催

・なし

② 他団体から後援を受けたもの

・なし

③ 他団体に後援、協賛したもの

- 知財情報フォーラム（IPI-Forum）(2021-05-11, 2021-07-13, 2021-11-16)
- INFOMATES 情報活動研究会(2021-11-13)
- Code4Lib JAPAN カンファレンス 2021（2021-09-11,12)
- IPCC　特許検索競技大会(2021-09-11)
- 日本規格協会　標準化と品質管理全国大会（2021-10-12～14)
- TP&D フォーラム２０２１(2021-11-27)

これらについては、会誌に広告を掲載する他、投稿があれば開催報告を会誌に掲載している。また当協会の宣伝用ビラの配布も適宜依頼している。

7.　事務局

事務局長事務取扱　長田　孝治　総括

担当	鈴木　吉之	各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、メルマガ発行、ホームページ維持管理
担当	木村かな子	経理、その他
担当	廣田みどり	会誌編集管理

担当　　光富　健一　　ISO 関連受託事業

・ 会員管理、購読者管理、書籍販売事務　2019 年 3 月 1 日以降は会員管理、購読者管理を(株)アドスリーに委託
　書籍販売事務については販売集の減少により事務局で実施
・ 会誌編集事務　昭和情報プロセス（株）に委託
・ シンポジウム運営サポート　(株)アドスリーに委託
・ 会場型 CBT 方式試験のシステム構築・業務運営　（株）イー・コミニケーションズ
・ 会計業務　　アスト税理士法人（AST）に委託
・ ホームページ（システム契約、WordPress サイトマネージメント保守）
　　タイニービット（有）

以上